

## 茸狩や知らぬ祠に手を合わす（井上井月）

井上井月（せいげつ 1822～1887）は越後に生まれ、江戸に遊学し俳諧や書芸を学んだ後諸国行脚の旅に出る。江戸末期に伊那に現れ、俳句に志のある人々の家を泊り歩いたり野宿をして伊那谷をさすらった。北信濃の俳人小林一茶と双璧をなす俳人として、伊那の文化遺産の一つとして位置づけられる。

井月は芭蕉を慕い、その句は庶民の哀歡を詠っているものが多い。祠に手を合わすのは、松茸に多く出会えることを祈願したのか、山の神への畏敬のためか、はたまた山の中での安全祈願か、この句は現代にも通じる句である。



【松茸 二〇〇五年一〇月山形県高島にて撮影】

今回は明治期の正岡子規と高浜虚子の時代の茸の俳句を紹介する予定。

## 海外旅行の楽しみ キノコグッズ編（2）

吉田 悦子

2006年11月21日から3週間ほど、ニュージーランド北島を旅しました。主要都市オークランドは海に囲まれ、いくつもの古い火山の上にできた坂の街です。中心街から10分位坂を上り下りすると、昔清掃工場兼発電所だったという、古い赤レンガの建物で煙突のあるビクトリア・パーク・マーケットに行くことができます。ここは常設のマーケットでお土産屋さんや工芸品店が数多く並んでいます。ここでファミリーという名の木製きのこマジックマッシュルームという名の陶器製のきのこを見つけました。（写真の真ん中の奥と手前）

